

http://www.e-meisei.net

No. 64



発行 (公社)愛知建築士会名古屋西支部
編集 広報渉外委員会
名古屋西支部西一丁目20番49号 クラ設計内
TEL(052)908-0939 FAX(052)908-0836
印刷所 株式会社 ウエルオン TEL(052)732-2227

“四間道・那古野 地域まちづくり”立ち上げ団体会議 活動開始!!

支部長 牛田 信彦

1月16日(月)午後6時から那古野コミュニティセンターにおいて標記会議が開催され、間もない2月1日(水)の夕刻、土蔵を保存活用した四間道ギャラリーにおいて第2回目が開かれました。

会議では名古屋市住宅都市局まちづくり企画課長から「地域まちづくり」についての趣旨説明があり、名古屋市都市計画マスタープランのなかで、「都心部の機能強化や名所づくりによる名古屋の魅力・都市力の向上」のため「世界に誇る都心づくり」として「名古屋駅」「栄・伏見・大須」「ささしま・名駅南」「納屋橋・四間道」が位置づけられたとの説明がありました。更に私達が関わる納屋橋・四間道地域では、「歴史ある水辺空間である堀川を生かしたまちづくりを進めること

史的な資源を生かした魅力ある空間づくり」をめざす。そのため、「地域がより良くなるために、地域の力(考え)で地域を育てる」ため「地域が主体となって取り組む、まちづくりの構想づくりとその実践」を「地域まちづくり」と呼び、「今後は、行政主体のハードを中心としたまちづくりに加え、計画・ルールづくりから、将来にわたる施設の管理やまちづくり活動など、地域の方々によるまちづくりもあわせて進めていくことがこれまで以上に必要」と説明がありました。参加団体は地元でまちづくりに取り組んでいる12団体(美濃路まちづくり推進協議会、愛知建築士会名古屋西支部を含む)。

「地域まちづくり」の機運醸成のためのイベント「四間道・那古野境界の魅力再発見」が、晴天の日差しに暖かさを感じる3月11日(日)に、上記12団体を中心となった「まちづくり協議会設立準備会」と「西区役所」共催で開催されました。



大正琴ミニコンサート

名古屋駅にもほど近い名古屋西四間道・那古野境界は、江戸時代から続く歴史的資産をはじめとした地域の魅力がたくさんあります。その中心的施設の一つ愛知県指定文化財の川伊藤家住宅を、まちづくりに活かさないものかと、当日は午前中に先ず施設内清掃から始めました。

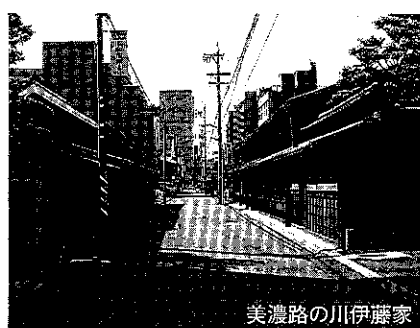
その後江戸時代から受け継がれた伝統的な細工などの説明を受け、保存の重要性を痛感しました。また地域の方々への内部見学会などが行われ施設自体を知っていた

だき、その重要性を理解していただく機会を持ちました。昼過ぎから四間道・那古野境界では、大正琴ミニコンサートや屋根神ウォーク、ものづくり文化の道展示会などが土蔵を再利用した場所で開催され、そのイベントに住民や周辺の方々が多く参加し、地域の持つ魅力再発見に繋がったのではと、感じる一日でした。

名古屋西支部では支部エリアの「地域まちづくり」に、美濃路まちづくり推進協議会と共に積極的に関わってゆく予定です。興味ある会員の方は事務局へ連絡下さい。多数のご参加をお待ちしております。



川伊藤家清掃活動



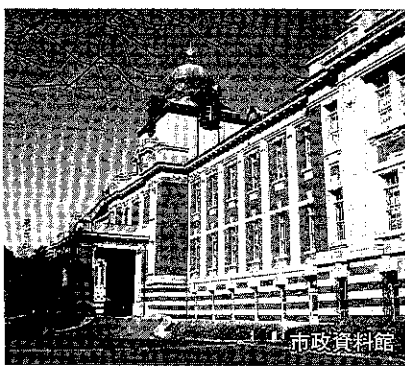
美濃路の川伊藤家

「名古屋市市政資料館と文化のみち散策」

研修見学会に参加して 2月18日(土)

栗田 光宏

約10年前に、市政資料館の見学に行ったことがある。大正11年名古屋控訴院・裁判所として建設された概要は記憶には残っていた。外壁の煉瓦の「赤」と花崗岩の「白」との色調の対比の良さ、さらには重厚さを再認識させられ、思わず写真に収めた。



市政資料館

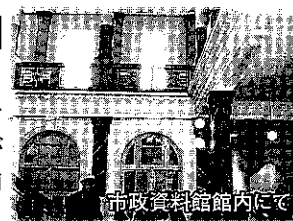
2階の休憩室に集合、復原修理のビデオを見て内部の見学となった。中央階段室の柱、大理石風塗装と、ステンドグラスの修理の大変さ、天井・壁の漆喰塗りに紙貼り、根気のいる熟練職人の「意気」を感じながら現地を見た。階段室の柱を目で見、手で触り、本物の大理石とマーブル塗りとの温度差を感じ、小さな化石跡も見て会議室へと足を

進めた。数々のテレビドラマや映画で使われた理由が判った。重厚な調度品・内装仕上げ・折上げ天井等、当時の雰囲気を目で感じ高級な絨毯を身体で感じながら、ゆっくりと歩き常設展示室へ移動する。

旧日本銀行名古屋支店、いとう呉服店(松坂屋の前身)、旧名古屋商工会議所、旧御園座等の模型が展示してあり、建築に関係する自分は「ワクワク」した気分がシャッターを何度も押していた。

「名古屋市の歩み」資料室では、市電廃止(昭和49年)。名古屋市の拡張、名東区と天白区が新設され16区になった事(昭和50年)。世界デザイン博覧会開催(平成元年)等、その時々々の出来事が甦ってきた。

市政資料館の見学会が終わり「まちが博物館」の資料を片手に主税町筋を散策、旧春田欽次郎邸、旧豊田佐助邸の門構え、ライトの帝国ホテルを模したと思われるマンションの入口、独特の煉瓦タイル貼りをした塀などを見ながら食事処へ。食後は早々に「文化のみち二葉館」へ移動した。



市政資料館内にて

日本の女優第一号として名をはせた、川上貞奴邸(二葉町にあった和洋折衷の建築物)を東区榑木町に移築・復元されたもので大正ロマンの匂いがする建物。ステンドグラスや大広間のソファ、階段手摺上部の大正時代のガラスを使った照明器具、設計者(施工?)の意図が、垣間見えて来たような気がした。

追加案内で徒歩10分位の場所、榑木館(陶磁器商として活躍した、井元為三郎が大正末期から昭和初期に建てた邸宅)を見学した。和館、洋館、二棟の蔵(当時としては珍しい地下室付き、ワインの貯蔵庫?)、茶室に洋・和風庭園が残された施設です。東洋と西洋との文化交流の架け渡しの役目を担っていた様子が伺える。ここにも随所にステンドグラスが使用されていて、当時の装飾の共通点が見えて来た気がした。

僅かな事だが嬉しかったことは「ドニチエコキップ」で入館料の割り引きがあったこと(65歳以上は半額)、もう一度「まちが博物館」の資料を持って見学に行く。



文化のみち二葉館

「構造設計者の集い」に参加して

海部津島支部会員 松岡 清

私は、構造設計事務所を主宰している者ではありませんが、親しくしている方からのご縁がありまして、構造に関する知識が十分でない身を省みず「構造設計者の集い」に参加し勉強させて頂いております。参加当初は、構造の専門家である方々に浅学の知識不足でご迷惑ではないかと心配しましたが、それぞれ日常業務の中での構造に関する経験談や悩みをお聞きし、自分自身大いに参考になりました。

現在、年に1~2件程の小規模建物の構造計算に携わる機会がありますが、姉齒事件以来構造に関する検討が多岐にわたり大変な作業量となりました。又、構造設計者の責任が非常に重くなり、地位の向上に繋がった面があるように思えますが、一方では法令違反の処分対象が構造関係のものが大半である現状を見ますと、構造に関する技術の習得と共に細心の注意を払った構造設計が望まれます。

大学では構造設計を専攻する学生が減っているとの話を聞いたことがありますが、建築構造の分野でも多くの

分化された専門知識が要求される昨今、新しい知識・技術を習得し建築設計に生かす為にも次の時代を担う技術者が育成されなければなりません。若い構造技術者の奮起に期待するものです。

建物は構造を無視した計画は意匠上良く見えたとしても決して良い建物とはいえません。明日にも大地震が予想される昨今、我々構造設計に携わるものとして意匠設計者に対し構造計画の重要性を訴え、平面計画の段階から構造上無理のない計画をすることが重要であると思っております。

構造の専門家でもない私ですが、おこがましくも現在建築士会の「建築構造委員会」に属しております。委員会の課題として意匠設計者に対し、各構造分野ごとに「建築構造に関するスキルアップ」と題し、構造を考えた計画に少しでも貢献できるよう模索中であります。

現在「構造設計者の集い」のメンバーはそれぞれ得意な構造建築物を手掛けておられますので、雑談や研修の中から各種の構造分野にわたる実践的な情報・知識が得られるものと確信いたします。このような勉強会を発足された方々の努力に敬意を表する次第です。一般の建築物を

設計される意匠設計者の方々にも少なからず参考となると思います。

この集いに参加されて、日常業務の中で疑問に思われること、構造設計者に対しての意見等を頂き、お互いが切磋琢磨し質の高い建築物の設計に努めようではありませんか。

元来文章を書くことが苦手で拙い言葉で貴支部の「会報」を汚し汗顔の至りです。再度、意匠設計者の皆さんに参加の呼び掛けをしまして終わります。

平成24年度支部通常総会のご案内

- 日時 平成24年4月19日(木) 午後6時より (受付:5時30分より/懇親会:7時より)
- 場所 ホテルサンルートプラザ名古屋 中村区名駅2-35-24 TEL 571-2221

※つきましては、返信用ハガキにて4月12日(木)までに必ず出欠のご回答をお知らせいただき、欠席の場合は委任状欄に記名・押印くださるようご協力ください。

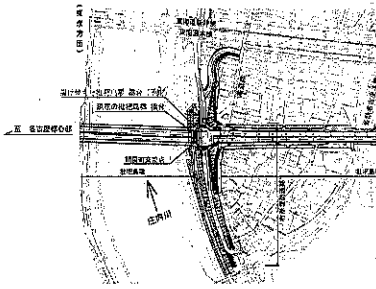
美濃路ウォッチング

白井 鏡造

庄内川枇杷島地区堤防整備 及び橋梁架け替えに関する説明会

上記説明会が2月3日(金)PM7時より西枇杷島会館2階ホールにおいて開催され、協議会から3名が出席しました。清須越のため、徳川家康の命により美濃路沿いに開かれた下小田井の市は、日本3大市場のひとつといわれるほどの盛況を誇り、そのときの富が現在の「山車」を残し、尾張西枇杷島まつりに引継がれています。この市場は昭和30年、西区上更へ移転されたため、残された地域は往時の活気を無くしましたが、町家造りの町並みは間屋町としての面影を残していました。平成12年の東海豪雨災害による県道枇杷島橋、JR東海道線、新幹線の3橋高上げ計画により立ち退きが進み、現在は町並みがすっかり変わってしまいました。

新しく提示された計画案について説明があり、住民から、多くの質問や要望が出され、今後の計画に反映されてゆくものと期待しています。尚、この計画に基づくと、山車蔵を持った橋詰神社敷地の大半は、道路拡張用地となるため移転を余儀なくされます。私達はそのため昨年11月、神社の実測調査を実施し、今後、移転計画を提案する予定です。



枇杷島橋都市計画図

四間道東「美濃路」に面し、高層マンション建設のための「近隣説明会」に参加

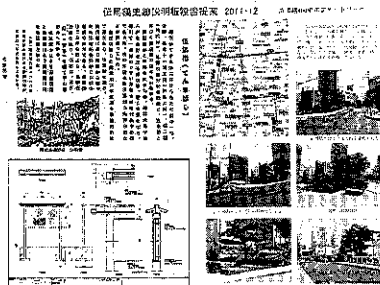
1月17日(火)、那古野コミュニティセンターにおいて上記説明会が開催されました。川伊藤家の向かい北側30mほどのところに地上9階建ての分譲マンションが計画されています。川伊藤家と計画建物が面している道は歴史街道「美濃路」です。清須越により清須から移った商人達が店を並べ、今も伊藤家、青木家など四間道を構成する蔵々の主家が街道に建ち並び、堀川との間には川倉が残され、名古屋

を代表する町並みを形成しています。

説明会では図面により、型どおりの説明がされました。立面図から見てもこの地域の景観を配慮されたとは思えず、また、街道に面して鉄骨のままの機械駐車施設が配置されていました。西区役所も説明会に出席し、この地域では新しいまちづくりが始まるとうしている現状を訴え、この地域の「歴史的景観」に配慮したデザインを求めました。私からは計画建物の前面道路が歴史街道であることを知っているかを問いましたが、不知との回答。近接マンションが町並みを配慮した実例を示し、「美濃路や四間道」を配慮した設計を求めました。デイベロッパー、設計事務所は現在名古屋市歴史まちづくり推進室と協議を重ね、今回示された意見を反映できるよう努力するとの意見を示し、閉会されました。

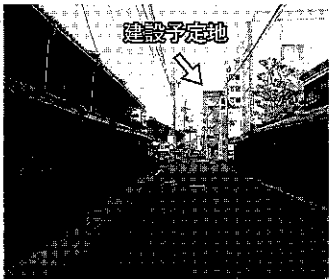
1月24日付けで、要望書がまとめられ、地域代表、地域まちづくり団体役職者11名の連名でデイベロッパー、設計事務所宛提出。今後、長くこの地域に大きな影響を与える建物だけに、行方が心配されます。

伝馬橋史跡説明板設置提案書提出



伝馬橋史跡説明板

平成23年12月27日、名古屋市長河川部堀川総合整備室へ上記提案書を提出してきました。清須越400年事業ネットワークは清須越400年事業のこれまでの成果を「清須越」と題した書籍にまとめました。今後は新たな展開を図ります。そのひとつが今まで研究してきた清須越の史実を目に見える形に残してゆくことです。南寺町、東寺町、という呉服店跡、伝馬橋の各史跡説明文を石碑や立て札などにして、広く市民の皆さんに知ってもらおう活動を展開してゆきます。その第1弾として伝馬橋史跡説明板の提案です。



建設予定地

「清須越によりできた名古屋にこの地域は、街道、地名、橋、商人たちの面影を色濃く残して」おり、都心にある伝馬橋が、史跡としての価値が高いにも拘らず、何も表示されていないため提案しました。実現に向けてはいつものハードルがありますが、一つ一つ乗り越えてゆくべく活動を継続してゆきます。

枇杷島みのじ会合同見学会参加 中島 鐘重

12月4日(日)2年ぶりに枇杷島みのじ会と美濃路まちづくり推進協議会合同による見学会「富山県南砺市城端「越中の小京都」」が開催されて参加しました。清須市名鉄二ツ枳駅前を出発。東海北陸自動車道を富山県の福光ICで高速を降り間もなく、小高い台地上にある善徳寺を中心とした城端町の町並みに入り、城端曳山会館駐車場に到着する。

ガイドボランティアにより城端町の文化財・曳山6台のうち、曳山会館に展示してある3台の説明と、5月初旬に催される全町挙げての曳山祭りについて、祭り気分を肌で感じさせる意気込みの解説を受け、城端町の歴史を勉強する。その後、曳山会館から裏通りに入り、大正ロマンをしのばせる旧銭湯「桂湯」から善徳寺に向かう。途中、石垣の上に建つ蔵群を見学。善徳寺は街の中心にあり、町民のシンボルとしての役目も果し存在感のある寺構え。参詣を済まし表通りに出て寺前交叉点から宗林寺通りに入る。この地出身の川島織物創業家の隣、宗林寺を通り過ぎると、町が高台にある事が分る坂道の坂道から、眼下にある「大工町」の幾棟かの蔵造り建物が展望でき、町の厚重感が良く判る。街を大掴みに一回りして、曳山会館隣の日本料理店「まねき」で昼食をとる。その後は自由行動。「まねき」の相向いにある、この地の主産業であった絹織物展示館を見学し、表通りの町並みを散策。土産屋で名産「がや焼豆」を買い、曳山会館に戻り見学の全行程を終了。

城端町は戦前の一地方の主産業の利益が地域に与えた文化遺産を、現在、凋落したとは言え住民全体で支え合っ



城端町曳山会館にて記念撮影

建築士会入会のきっかけ

相澤 勉

オブザーバーとして建築士会に参加させて頂きまして数ヶ月。沢山の仲間と知り合えました。私が建築士会の役員会へ参加させて頂いたきっかけは、建築士が一人しか居ない職場で、業務上悩んだ時相談できる仲間が欲しかったという事からでした。

情報化社会の中、ネットで検索すれば何でも解ると言いながら、結局はしっかりした建築士会の会報による情報や、建築士同士のヒューマンネットワークによる情報の大事さを、オブザーバーをさせて頂いて実感しました。

特に役員会には建築士としてベテランの方が多いため、仕事上の相談が出来る良き先輩であります。私のような建築士としても人間としても経験が浅い若輩者にとっては頼りがいのある方と知り合える良い場所でした。

役員会に参加させて頂いて一番感じた事は、若い方と女性の参加者が非常に少ない事でした。役員会がボランティア的な面が大きい事と、会社勤めの若い方が事業者へ「役員会へ参加したい」と申し出るのが難しいという事や、建築士自体の高齢化も背景にあるかと思えます。私の経験から言うと、若い方のほうが積極的に役員会に参加するメリットは大きいかと思えます。とは言うものの、現在の建築設計士の業務上、役員会や建築士会が主催する勉強会や親睦会に参加するのが難しい方のほうが多いのでは?と感じます。建築士会会員も建築士の人数から割合を考えると非常に少ないのも残念です。

役員会にオブザーバーとして参加させて頂き、建築士が建築士会を通じ、まちづくりに参加出来る環境があれば、より建築士の仕事にも誇りが持て、技術の向上・精進できると感じました。

青年委員会見学会 西春中学校見学会の報告

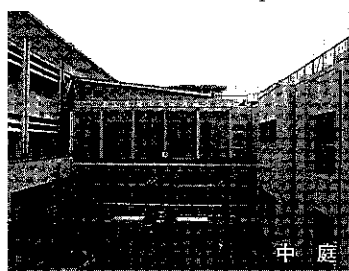
名古屋西支部青年委員長 原 英光

平成23年11月28日、北名古屋市立西春中学校の見学会を開催しました。

西春中学校は、環境省の「学校エコ改修と環境教育事業」通称「エコフロー事業」の平成17年度モデル校のうちの1校であり、3年にわたりさまざまな事業に取り組んできた学校です。また、2010年「愛知県まちなみ建築賞」「JLA環境建築賞」を受賞しています。

そこで今回、学校、病院、まちづくりなど子どもを取り巻く環境デザインの研究、実践に取り組んでみえる鈴木賢一先生(名古屋市立大学教授)と、実際に設計をされた株式会社東畑建築事務所の高木耕一さんを講師としてお招きし、見学・解説をお願いしました。当日は13名の参加がありました。皆さん地元で建築関係の仕事に携わる方ばかりです。集合場所から校舎入口へ向かうと、そこにはウェルカムボードを準備していただいております、学校の先生方に暖かく迎えていただきました。

はじめに多目的室に通していただき、設計者の高木さんより西春中学校エコ改修事業の内容について説明いただきました。「エコフロー事業」とは ①環境提言 ②LC CO2 ③ゴミの削減 ④地域技術者の育成 ⑤環境教育 ⑥環境対策の普及 ⑦エコ市場 の6つの目的を持った事業を指します。(エコフロー事業 <http://www.ecoflow.go.jp/>)



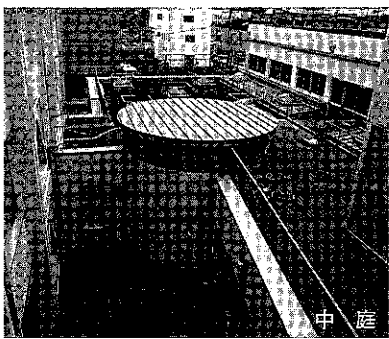
中庭

具体的には、地域と連携して環境教育・環境建築を考えるために「学校エコ改修検討会」「環境教育検討会」「エコ改修設計ワークショップ」「エコライフ講座」「省エネ、緑化

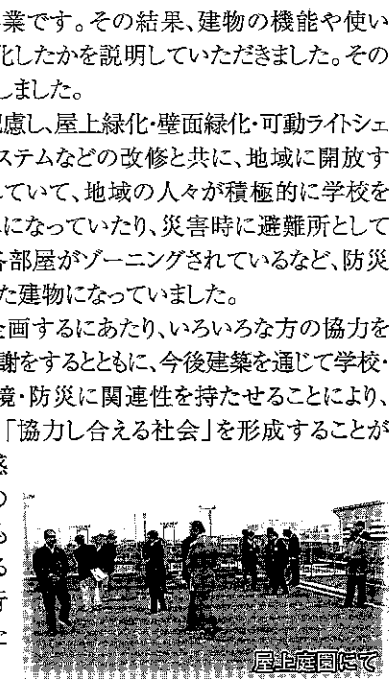
ゴミ、リサイクルについてグループワーク」など地域住民・地元技術者・学校関係者・生徒といったさまざまな参加者を対象として、多様な意見や考えを反映させて改修項目を採用した事業です。その結果、建物の機能や使い方がどのように変化してきたかを説明していただきました。その後、校舎の見学をしました。

建物は環境に配慮し、屋上緑化・壁面緑化・可動ライトシェルフ・換気通風システムなどの改修と共に、地域に開放する部分が設けられていて、地域の人々が積極的に学校を活用できる仕組みになっていたり、災害時に避難所として機能できるように各部屋がゾーニングされているなど、防災機能にも考慮された建物になっていました。

この見学会を企画するにあたり、いろいろな方の協力をいただきました。感謝するとともに、今後建築を通じて学校・専門家・地域・環境・防災に関連性を持たせることにより、地域一体となった「協力し合える社会」を形成することができる可能性を感じました。地元の建築士である私も地域に協力できるようにこれからの行動を考えていきたいと思います。



中庭



屋上緑化にて

私のおすすめ

「カメラ片手に運動不足解消」

奥村建築設計室 奥村 正博

最近、写真を撮るのが楽しい。2年前にデジタル一眼レフカメラを買い愛用している。

フィルムの時代と比べ現像代を気にせずどんどん撮れる。記念写真や記録写真ならコンパクトなデジタルカメラや携帯電話のカメラで十分だったが、風景など撮ろうとするとどうも物足りないと感じていた。春は桜、夏の山、秋の紅葉をはじめ、観光や普通の街歩きなど色々な場所を歩き回りながら撮影を楽しんで

いる。清洲・岩倉の五条川沿いの桜、夏の花・紅葉の時期の木曾御嶽山などがお気に入りの場所だ。

普段、建築設計の仕事をする場合は、なにも無い処、既存の町並みに新たにどう造り上げていくかという作業になるのですが、写真の場合は目の前に広がる風景・町並みをどう切り取るかという作業になることが多い。撮影の時に気を使うのは構図とタイミングだ。縦か横か、あの山と花をバランス良く撮るにはどうしよう?あの街並のあの屋根が面白いから目立たせよう、祭りでは山車の動きのタイミングを考え、などと色々試しながら何枚も撮る。後で確認してみても全てが上手く撮れているわけではないが、何枚か面白い写真が撮

れていればそれで良い。写真の技術を駆使した芸術写真などは無理ですが、何気なく見ていた街を切り取った面白い表情、祭りなどの臨場感が表現できたかなという写真を撮ってみようと思っていて。

観光地や祭り・イベントなどではフォトコンテストを行っている場合があり、応募するのも楽しみです。昨年は、西枇杷島祭と大須大道町人祭のコンテストで末席ながら入選というご褒美を頂き、次は上の賞を狙おうと目標も出来益々熱中しそうです。

さて、次はどこへカメラを連れ出すか、などと画策しているところですが、本当は仕事が忙しくてそんな暇がないよと言う様になりたいものです。

「京町家再生事例研修見学会」に参加して 志賀 勝則

町家や民家あるいは古い町並みが今、全国で急速に姿を消しています。住まい手の高齢化と価値観の変容の中で貴重な技術資産と日本古来の景観が絶滅寸前。この状況を克服する連携と協働が京都で始動しています。3月3日(土)に愛知建築士会まちづくり委員会主催の見学会に40余人が参加。建築家の木下龍一さんに現場で詳細に説明いただきました。

■ 斧屋(釜座町)

とまり庭と中庭を持つ標準的な表屋づくりの改修事例。明治初期建築(推定築130年)。



木下龍一さん

■ 百足屋(新町)

明治中期の骨格を生かして復元した京町家で、和食の店として活用。今回の見学会の昼食会場。

■ 紫織庵(新町)

江戸時代の後期に医院として使用されていた町家。大正時代に川崎家の本宅兼迎賓館として、洋館部分を武田五一、茶室や和室部分を数寄屋の名工・上坂浅次郎の設計で改修。洋館部分はタイル・大



紫織庵

※表屋づくり——道路に面して、店があり、中庭を隔てて、奥を住居棟として両者をつないでいるつくりの町家をいう。

谷石等を使用し、フランクロイド・ライト風な雰囲気。五一の得意な和洋融合のデザインが見られる。

■ 酒井邸(姉東堀川町)

京町家作事組監修により改修中の町家。若い人が古い町家に住みたいという機運が芽生えていて、ここもその事例。



酒井邸 柱の復旧工事

■ 増田屋徳兵衛商店(伏見)

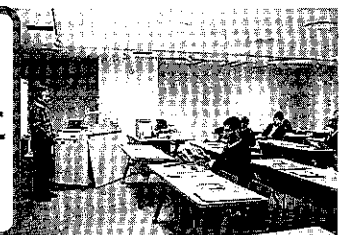
創業300年余の京都で最も古い造り酒屋。14代目増田社長の解説で改修概要と酒造りの流れを教えていただく。



増田屋徳兵衛商店

平成23年度 第2回 研修勉強会に参加して

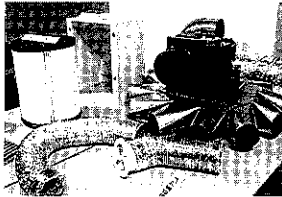
伊藤 顯



1月17日にTOTO名古屋ショールーム内のマルチスペースAにて、名古屋西支部の研修勉強会が開催されました。今回のテーマは「換気と住環境を変えるエアヒル」です。エアヒルとは少々聞きなれない言葉ですが、高気密住宅に適した第3種セントラル換気システムのことです。建築基準法の改正によりシックハウス対策として24時間換気設備の設置義務化が定

められ8年余り経ちましたが、今回のセミナーに参加して新たな発見が多々ありました。

最初にエアヒルの開発者である岡田好勝氏より説明がありました。湿り空気線図を使用した結露発生仕組みの解説や、排気口を上ではなく下に設置する手法は説得力がありました。今までは当然のように天井付近に換気扇を設置していましたが、外出時や夜間のように人の動きが少ないときVOC等は床面に溜まるとのこと、確かにそうですね。更に基礎耐圧版から地熱を利用し熱交換した給気システム。えっ!基礎底面からは熱を損失するのでは?少々疑問も残り



ましたが、画期的なシステムには間違いありません。換気と省エネについてももう一度考え直す良い機会となりました。

その後、夢木香株式会社の中川社長より取り扱っている薪ストーブや、LED蛍光管等の省エネを考慮した製品説明がありました。中でもサンプルとしていただいた木曾檜の天然蒸留水は、毎日入浴時に使用し檜の香りを楽しんでいます。

最後に、会場を提供していただいたTOTO株式会社の四辻氏より新商品とショールーム内の説明があり終了となりました。

ご協力いただいた夢木香様、TOTO様、有意義な時間をありがとうございました。また、来年度も研修委員会の企画に期待しています。

卒寿記念 富士絶景写真展

森 登

当支部相談役・浦野三男さんの写真展が、2月6~8日、丸善栄店の4階ギャラリーで開催されました。東日本大震災チャリティー・卒寿記念「富士絶景 写真展」として、長年にわたって撮り続けられた作品と共に、近年に撮られた作品も含めての展示でした。

今年もすでに撮影に出掛けられたとのこと。ご高齢にもかかわらずものすごいバイタリティーで、且つ写真から伝わってくる静かなるエネルギーに言葉を失ってしまいました。

「毎回違った表情を見せてくれる富士山に対して構図も含めて撮影条件が揃わなければならないことは当然ですが、『写真を撮らせていただいている』心構えが大切で、建築の設計にも同じようなことが言えるのではないのでしょうか」とアドバイスをいただきました。



浦野三男さん

学生のコラム

住宅デザインを学んで

名古屋デザイナー学院 インテリアデザイン学科 住宅デザインコース 鈴木 菜月

私が、デザインについて学び始めてから二年が経ちます。この二年間、住宅デザインを学んでいるいろんな考えや想いを少しながら感じる事ができました。一日...一年...一生と、生きていく上の生活空間である住宅に過ごしやすく、人が繋がりやすい空間デザインをしたいという想いが、私の住宅デザインコースへのきっかけでした。そうして始まった授業では、自分が思っている以上に「デザインする」ことの難しさを知りました。

課題では、いくつものスタディ模型を重ねて、一つのカチにしていけることがなかなか出来ず、一つのスタディ模型を作るのにも苦戦しました。一つ問題を解決できたと思えばまた問題にぶつかり、悩み悩んで...の繰り返しでした。しかし、今思えば私たちが悩むたび、優しく笑いながら「頭が固いぞ。こんやくみたくないな頭にならないよ。」と言う先生がいたから、楽しく住宅をデザインすることが出来たと思っています。

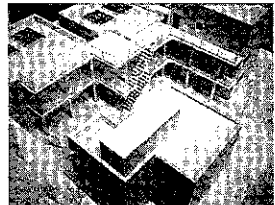


筆者(左)

二年生になり、二年間の集大成となる卒業制作が始まりました。正直、自分がどんな住宅をデザインしたいのか、悩むばかりでなかなか進むことが出来ない時期もありました。しかし、一つだけ「人が集まる住宅」をデザインしていきたいという想いがありました。

一日24時間、一年365日、私たちはいろんな人と話したり、笑ったり、助け合って生活しています。そんな中、日々の生活で何を共有して、人と人が繋がるかを考えたとき「楽しさ」が私の考えたひとつの共有でした。

一年間の中には四つの季節があり、その季節ごとにさまざまなイベントがあります。そういったイベントをみんなで楽しむ空間を集合住宅に取り込むことで、人との繋がりやコミュニケーションがとれると思えました。また、楽しさの共有は、笑顔にも繋がると思います。最後に、この二年間は考えたり、悩むことばかりでしたが、その分いろんな人と話し合ったり、笑い合ったり楽しく住宅をデザイン出来ました。これからは二年間の経験を糧にして、感謝の気持ちを忘れずに次のステップへ進んでいきたいです。



住宅リフォーム・リニューアル工事、耐震補強工事
集合住宅・ビル・マンション・一般住宅・倉庫・工場・営業店舗
株式会社 ムラテ
TEL 052-411-8111

超高強度軽量コンクリート製OAフロア
ネットワークフロア29/40
10年保証製品
共同カイトック株式会社
TEL (052) 581-0204

建築基準法解説シリーズ

令第46条の解説

解説担当 馬場 富雄

はじめに

昨年3月11日の東日本大震災の発生により、建築界にも種々の問題が提起されました。そこで、

- 火山噴火と豪雪による建物対策
- 大津波襲来に耐える避難ビルの設計
- 地盤液状化対策の建物設計

について、若干私見を述べることで一年が終わってしまいました。今年こそは平穩を願って本題の建築基準法の解説を進めたいと思います。

まず、施行令第46条に伴う建設省告示第1454号の抜粋を掲げます。

建設省告示第1454号

第一の2の一部

ただし局地的な地形や、建物の影響により、平均風速が割り増しされるおそれのある場合においては、その影響を考慮しなければならない。

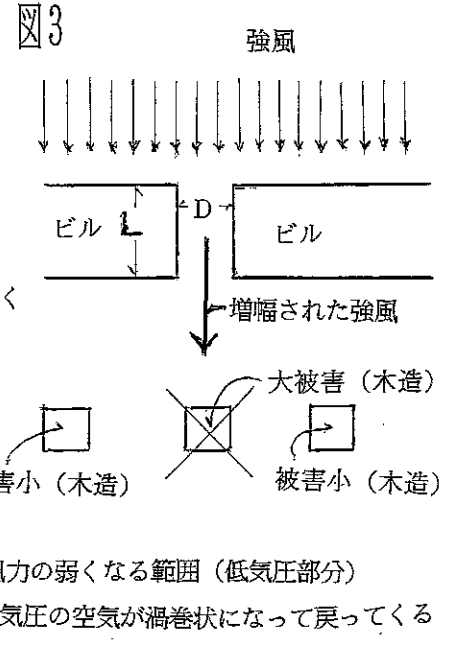
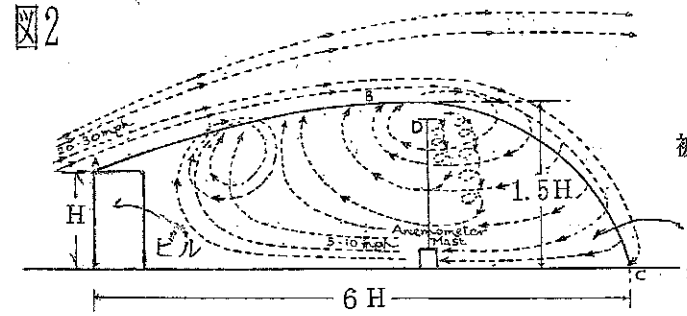
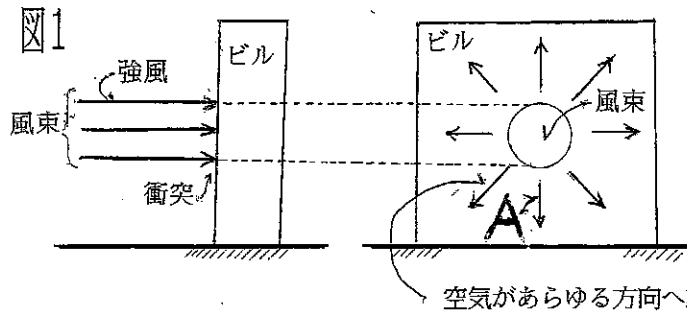
前にも述べたとおり、考慮するパターンが何も指示されていませんので、「めいせい」58号、59号、60号と3回にわたって、そのパターンを説明してきましたが、今回のビルの風害についての解説で一応終わりといたします。

次号からは、第47条の解説に入ります。

ビルの出現

わが国の建築歴史をざっと三千年のスパンで考えてみると、ドイツで鉄筋コンクリート構造が発明されてその技術がわが国へ入ってきたのはわずか約百年前のことですから、その97%は木造の歴史であり、ビルが林立するようになったのは建築の歴史全体から考えると、つい最近のことなのです。だから、せいぜい木造2階建までの経験しかない技術者にとっては、6、7階建ての建築が可能という技術は驚異的なものでした。せっかくの機会ですので話が少しずれますが、先輩から聞いた当時のエピソードをすこし述べます。

その技術を「わが物にしたい!」これは建築技術者全体の願望でした。しかし、その技術書は全部ドイツ語で、先生も学生も一緒になって解説したそうです。また、既に



実社会で働いている技術者は、ドイツ人のところへ夜出かけていってドイツ語を学んだとのこと。

ビル風害の問題発生

ビルともなると、木造の小さな建物とは違い巨大な塊です。この塊に強風がぶつかる時、その空気の流れにいろいろな変化が発生します。特に最近ではビル群による風方向、風力の影響が風洞実験などによって盛んに研究されています。今回は一つのビルについての解説をいたします。

ビル面に強風がぶつかる時は固体と固体がぶつかる衝突現象と同じようなことが起こります。例えばコンクリートの床面にガラス瓶を落とすと瓶は割れてガラスの破片が四方へ飛び散ります。これと同じでビル面にぶつかった空気はあらゆる方向に向きを変えて移動します。(図1参照)この場合、図のAの風がくせ者です。空気は上から下へと流れ、そこに建物があると風力が屋根荷重と同じような働きをします。以前ビルのそばにあったポンプ室が圧壊した実例があります。

次にビルの裏側について考えてみると、皆様ご存じのとおり裏側は流れていく空気の影響で低気圧となり、これに対して周りの高気圧の空気が低い方へ流れようとしています。そして、この力が馬鹿になりません。たとえば、台風の時風の吹いてくる南側をベニヤ板で守っている時に、裏側に発生した低気圧に室内の空気が移動しようとするため、北側の窓が破れてしまった実例も多々あったのです。

そこで、ビルの裏側ではどのくらいの範囲が低気圧になるのかといいますと、ある実験例を紹介いたします(図2)。これはあくまで一つの自安として参考にしてください。

図2で示しているように、ビルの裏側に発生した低気圧に向かってくる高気圧の風は渦巻状になって流れてきます。しかし、この風によって建物に被害がでることはまずありませんが、洗濯物が巻き上げられて逆立ちしたとか、雨が地上から空に向かって逆に降ったとか日常生活ではよく耳にします。

ビルとビルの間隔が狭い場合の落とし穴

図3を見てください。これは昭和34年の「伊勢湾台風」の時の被害家屋の実例図です。

台風時に溜まった空気が隙間より勢いよく吹きつけたために起きたものと思われます。

これは既に解説した、消防隊によって勢いよく水を放水するホースの理論です(「めいせい」59号参照)。

では、どんな幅の隙間だとこの現象が起きるのか結局は図3のDとLの関係で決まってくるものと思われますが、なにしろ伊勢湾台風直後のことで犠牲者が5,000人以上も出て、その遺体処理の真最中のため、とても学術調査どころではなかったのです。十分調べてレポートが出せなかったことは、今でも残念に思っています。当時、市の技術職員だった筆者は、十分調査してレポートが出せなかったことについて、今でも残念に思っています。

春夏秋冬

東日本大震災により、昨年一年間、私たちを取り巻くキーワードは「液状化」一辺倒だったが、今年に入ると、政府のエネルギー政策は一変し、自然再生エネルギーの使用率を引き上げるとともに、住宅の省エネルギー化や家庭におけるエネルギー消費量を低減することが急務となり、ライフサイクルカーボンマイナス住宅「LCCM住宅」の実現に方向転換をした。これを受け、住宅市場は一気に「スマートハウス」へと移行し、太陽光発電システムや蓄電池などのエネルギー機器、家電、住宅機器などをネットワーク化し、エネルギー使用を管理・最適化するホームエネルギーマネジメントシステム「HEMS」でCO₂排出削減の実現を目指すこととなった。それにしても野球の猫の目打線のごとく、我々の業界はこのところやたら目まぐるしい。

編集後記

編集後記に不向きですが、一言失礼します。建築士事務所の業務報告書・建築士定期講習に関するハガキが届きました。制度改正前からシッコイ程届いています。「義務」にされてしまったわけですから、「義務」を忘れて知らない側に責任が有ります。きちっと対応するのが当たり前ですよ…。こんなに親切にお知らせいただくようなことではない…と思うのですがいかがですか?無駄なことだと思いませんか?東日本への義援金にでも充てたらいかがですか? 森 登

国土交通省大臣認定 建築技術性能証明 建築技術性能証明

SMD杭 スーパーミニドリル

DM工法 SMD杭工法シリーズ

HITSコラム スラリ-系機械掘削式 鋼層重ね組立工法

造園 外構工事・公共工事 地盤調査・地盤改良 SMD杭製造・販売 石材加工・販売

株式会社 本陣

〒461-0048 名古屋市東区矢田南三丁目13番7号
TEL: 052-722-3000 FAX: 052-722-8311
E-mail: info@honjin.co URL: http://www.honjin.co

Total Media Support

WELL ON 株式会社 ウェルオン

〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目21番31号
TEL 052-732-2227 FAX 052-733-3178
URL http://www.well-on.co.jp/

16190101(03)

平成22年度 **1級建築士 設計製図試験**

愛知県 **合格者占有率 No.1**

11年連続で愛知県の合格者の半数以上が当学院受講生でした!

平成22年度 合格者占有率 **63.9%**

平成22年度 1級建築士設計製図試験 愛知県合格者252名中、当学院受講生合格者161名

※都道府県別合格者数は、(財)建築技術教育普及センター発表の試験番号より算出
※総合資格学院の合格発表では、後述試験のみの受験生、教材購入者、研修の受講生等は、通定受講生は一切含まれておりません。

「わかるまで」「独力で解けるまで」指導。 **法定講習** (株式会社 総合資格学院 法定講習センター 実施)

建築士法に基づく **管理建築士講習**

建築士法に基づく **一級/二級建築士定期講習**

総合資格学院 すべては「合格」のために

名古屋校 TEL.052-202-1751 岐阜校 TEL.058-277-3701
小牧校 TEL.0568-42-1211 津校 TEL.059-238-0711
岡崎校 TEL.0564-57-8161 四日市校 TEL.059-359-0711
豊橋校 TEL.0532-57-0311 www.shikaku.co.jp 総合資格学院 監修